

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (52)



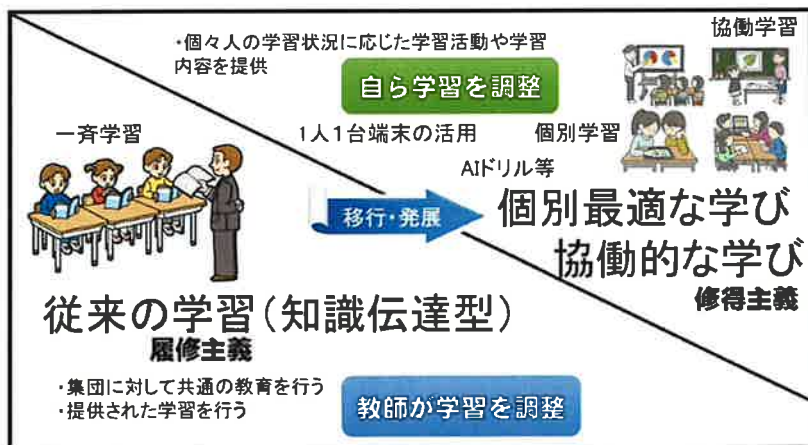
～ 1人1台端末を活用しよう① ～

石垣市教育委員会 学校教育課指導主事 伊波勇史

2050年の社会を想像できますか？約30年後の世界です。ちょっと、遠すぎて想像ができませんね。それでは、2030年はどうでしょう。約8年後の社会です。

経済産業省から「未来人材ビジョン」という未来を支える人材の育成・確保に向けた方向性「旧来の日本型雇用システムからの転換」「好きなことに夢中になれる教育への転換」の2つが示されました。その中で、2050年には、「社会システム自体が大きく変化している」そして、「その変化を加える本格的な出発点が2030年」と示しています。つまり、8年後の2030年に向けた大きな転換期にあたり、今の子どもたちが、これからの社会システムを変えていく人材となっていきます。

学校教育においては、GIGAスクール構想の実現に向け、「令和の日本型教育の構築を目指して」(2021中教審答申)の中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が示されました。この2つの学びの推進には、これまでの一斉指導だけでは、子どもの多様なニーズに応えられなくなっていることが挙げられます。



一斉指導は、文字通り全員に対して一つのペースで進められます。学級集団の学習速度のやや遅めが多いと思います。例えば、「5分で解いてみよう」と問題に取り組ませた場合、5分後には、まだ終わっていない子も「鉛筆を置いて」と活動を中断せざる得ません。ひょっとしたらこの子は、7分あれば問題を解けたかも知れません。一斉授業は、時間をかければ理解でき

たかもしれないことも時間の制約があるために活動を打ち切ってしまうという課題があります。そのためこの子は、「自分はできなかった」という誤った認識とともに、駅伝の繰り上げスタートのように次の活動に向かうこととなります。逆に早く解け終えた子は、もう1問、2問と持ち時間を有効に活用できます。しかし、学習が速い子は、待たされることが多く物足りなさやイライラを感じてしまいます。これらを解決するために、ICTを活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実が求められているのです。

さて、石垣市教育委員会では、ICT活用基本方針「I-プラン」を作成し、ICT端末を効果的に活用したこれからの授業の在り方の方向性を示し、自分で考え行動する「自律した学習者」の育成を目標に掲げています。「自律した学習者」とは、自分の学習状況を理解し、どのような手立てで学習していけばよいかを考え選択し、実践していく学習者のことです。子どもは、自分で考え選択し、学習する中で、うまくいったりいかなかったりといった経験をします。「自律した学習者」になるためには、そうした試行錯誤を

しながら、自分の意思で決定し、課題を解決していかなければなりません。1人1台端末を効果的に活用し、「個別最適な学び」で試行錯誤しながら自ら学習を進め、「協働的な学び」で教え合うことで、「自律した学習者」と成長していきます。

まだまだ、想像できないことも多いかとは思いますが、ご家庭でも、子どもたちが自律して学べるよう励ましの声かけをお願いします。石垣市教育委員会ではホームページに下記の資料をアップしています。

※QRコードから文科省動画及び「I-プラン」をご確認ください。



文部科学省：GIGA スクール構想の実現



石垣市 ICT 活用基本方針「I-プラン」